

たぐすい

TAKUSUI

7

2006年 July

No.597



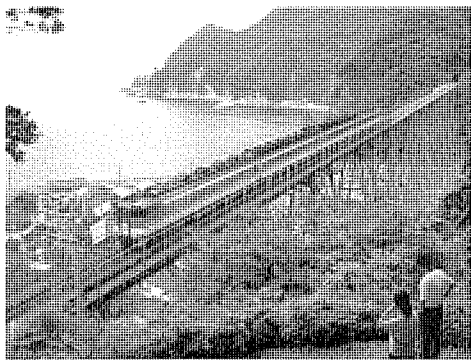
TOPICS 通常総会開催 —JF兵庫漁連・JF兵庫信漁連・JFぎよさい兵庫—

ウチの漁協! JF由良町中央

CONTENTS

- 2 旬に想う
お大根とお人參
表紙の言葉
- 3 フリースペース our hour
第31回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催
推進室より
- 4 TOPICS1
通常総会開催 JF兵庫漁連
- 5 TOPICS2
通常総会開催 JF兵庫信漁連
- 6 TOPICS3
通常総会開催 JFぎょうさい兵庫
- 7 News
兵庫県内海漁船保険組合が漁協担当職員を対象に
ディーゼルエンジンの技術研修会を開催
TOPICS4
淡路地区漁協女性部連合会 50周年式典開催
- 8 REPORT
中核的漁業者視察報告 その1
- 9 海づくり協会だより
- 10 兵庫JCC通信
- 11 お知らせ・燃油1リットルあたり1円の助成を決定
行事予定
- 12 ウチの漁協
JF由良町中央

表紙の言葉

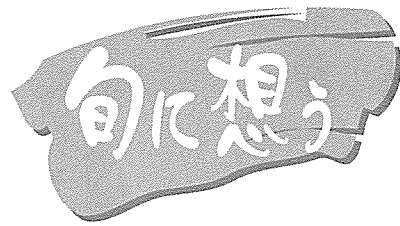


餘部橋りょう

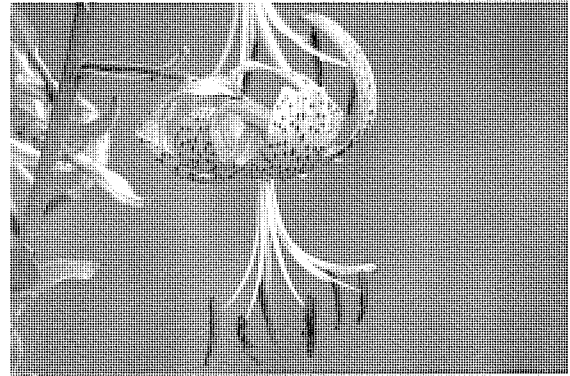
橋脚の鋼材は、アメリカから九州の門司に送られ、3千トンの内地汽船に積替え、明治43年8月餘部沖でハシケに移して陸揚げされたが、いつもなら荒れがちな日本海が材料取卸しの間中ナギが続き無事作業完了となった。

地上41メートルの工事だけに、作業員には2万円という巨額な保険がかけられた。

～橋りょう横の銘文より～



写真と文 遊方子



お大根とお人參

◆知人に誘われ近くの神社へ行った。無信心ながらも、大きな存在を敬いたい思いは常に持っており、神前に頭を垂れて念ずる。安全祈願などしても、神様はソッポ向かれるだろうが、ともあれ合掌すれば、自ずと清々しい気持ちにはなる。帰りにファーストフード店に入ったら、支払い時に「千円からお預かりします」と言い所、奇妙な日本語だなどと思った。「千円預かります」で良い所に「から」がついた違和感があるが、文化庁の調べでは六割の人が気にならないと回答している。特に若い人や学生を容認する人が多いそうだ。預かった千円から代金〇円を頂きますと言うところを、省略した形と了解しているのである。日本語も変わりつつあると実感したのだった。

◆敬語には尊敬語・謙譲語・丁寧語の三つと美化語というのがある。その使い分けは、非常に判り難く、尊敬語という言葉にも誤解を生む根源がありそうに思う。「こちらコーヒーになります」や「ご注文は以上で宜しかったですでしょうか」など、何とも珍妙な日本語が罷り通っている。「くになります」は当たりが柔らかく聞こえるため、それを丁寧と感じて使っているらしいが、これは丁寧語とは思えない。客と店員という関係で、相手を尊敬する気持ちが必要かどうかは疑問であるが、相手を立て自分は謙へりくだる気持ちは必要だろう。この気持ちがあれば、言葉は自然に敬語になる筈と思うのである。

◆知人の細君が肺をガンに冒された。本人に告知すべきか知らぬ方が良いのかと悩んだそうである。彼女の三回

忌の席で、そんな話になった。知人は告知しなかったが、本人は知っており「ガンじゃないよ。カモカアヒルだワ」と洒落のめしたという。どうも作り話のようだが、末期ガンの病床にあっても、これ位のユーモア精神を持ちたいなと思う。通常の生活の中でも、言葉遣いへの配慮は大切なことで、相手に余計な気遣いをさせないため、露骨に言わず曖昧表現をする場面は往々にある。言葉尻を上げるヘンな喋り方をしたり、「…たりして」や「…とか」を付けた言葉をよく聞く。言葉の乱れを文化の進む課程と思えば目くじら立てるに及ばないが、軽々しく真似はしたくない思いである。

◆味噌汁の事を「おみおつけ」とも言い、漢字で「御御付け」と「御」が3つも並ぶ。丁寧すぎて超過保護という感じである。テレビの園芸番組で司会役の男が「お花にお水をあげて…」と喋っていた。飼猫に餌を上げると言ったりもするが、猫や花に敬語は要らぬ。餌をやる、水をやるで十分だろう。「お」をつければ丁寧だと思いをしているようだが、公共の番組が此れでは大いに問題であり、出演者の吟味が必要なのではあるまいか。短くて言い易いため、「お」は使い過ぎて仕舞う傾向にある。お電話：お紅茶・お大根・お人參など、不必要な丁寧語は聞き苦しく不愉快になる。夜分恐れ入ります」に「お」が付くと、「親分恐れ入ります」となってしまうのではないか。

第31回 兵庫県漁民物故者合同供養祭開催

去る、6月11日(日)、聖地高野山において漁業関係者ら約220名の参列のもと、「第31回 漁民物故者合同供養祭」が厳かに執り行われました。

始めに、遺族代表の手によって、本年度物故された173柱の芳名簿の奉納が行われ、丸一芳訓JF兵庫漁連会長より、追悼のことばが述べられました。続いて、兵庫県知事(小池孝司農林水産局長代読)、JF全漁連会長(宮原邦之代表理事専務)より、来賓代表として追悼のことばが述べられ、読経のながれる中、主催者、来賓、ご遺族、一般参列者の順に慰霊塔の前で焼香を行いました。



本年度はJF坊勢より海難遺児4名が焼香を行い、そのいたいけな姿に、参列者が涙する場面もありました。

これまでに合祀されたご尊霊は10,553柱となりました。

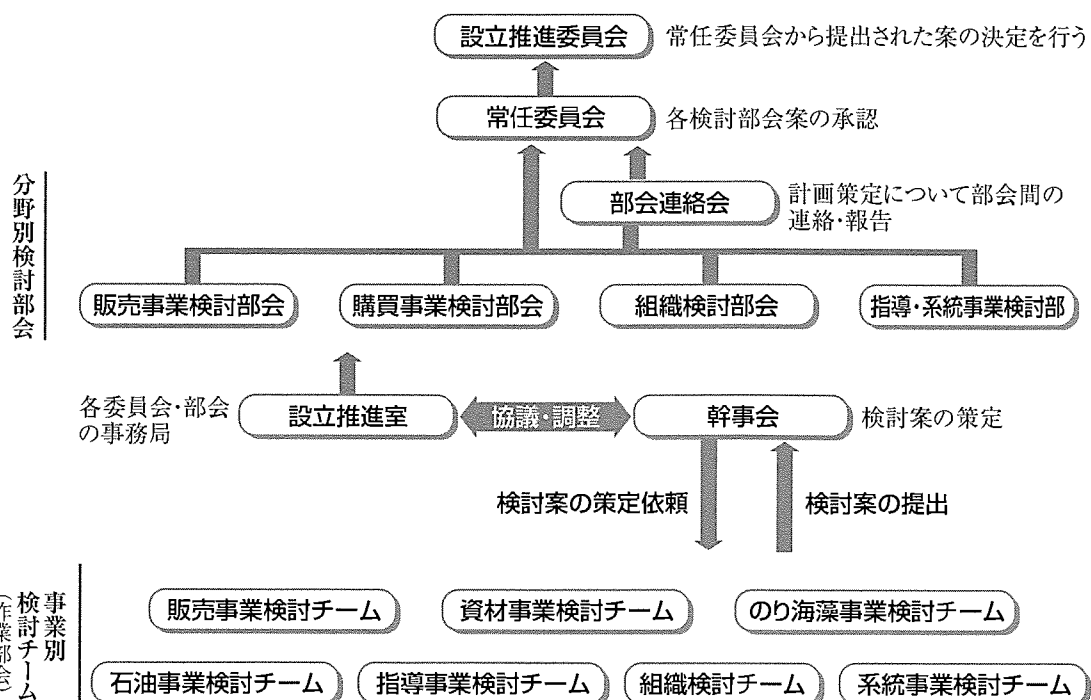
海難事故の根絶を心よりお祈りし、兵庫県漁民の御霊の常しえに安らかなことをお祈りいたします。

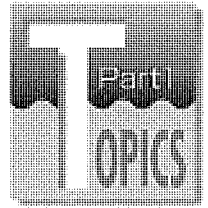


推進室より

平成18年4月7日「JFグループ兵庫・経済事業改革JF設立推進委員会」が設立され、経済事業改革JFの具体的な計画策定(「青写真づくり」)が開始されたことを受け、5月22日開催の同委員会常任委員会において、分野別検討部会委員の選任(県下JF組長+県職員)と事業別検討チームが設置されました。

現在、各検討チームと相談の上、各JFに対して「JF基本調査」を行っております。この調査内容をもとに、計画策定(青写真)の方向性の検討を行う予定です。



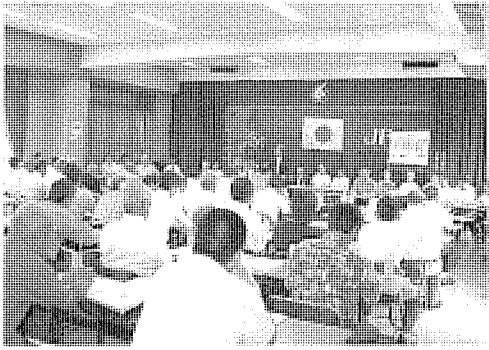


丸一漁連会長は通常総会の開催にあたり、「今ここに立ち、皆様方のお顔を拝見するとき、私の脳裏にはこの一年の出来事が走馬灯のごとく浮かんでまいります。昨今の漁業界はひとつの問題が解決すると、新たにひとつの問題が発生するという単純な図式ではなく、多くの問題を抱えた中で、次々に新しい問題が生じてくるという艱難辛苦そのものの時代であります。」

資源の減少と漁師安、二百海里問題や輸入魚の増加、また、のり養殖では色落ち問題など解決し切れていない諸問題に加え、新たに燃油の暴騰という深刻な状況に遭遇した現在、漁師ひとりひとりの苦渋の表情が目につく「果たして、皆様方の負託に応えることができただろうか」と自問自答を繰り返しております。

しかしながら、「筋の光明が見えてきたのもこの1年であります。例えば、各地区から生粋の若い漁師が「大輪田塾」に集い、その成果として自分の体験をおして理論整然と講演し、何百人もの人の心をつかんだと聞いておりますし、井戸知事には新たに「漁人の会」をつくり、県民の輪の中に入れて我々の漁師魂を伝えるのか、そのためには県政への提案をどのようにすべきかなど、様々な話題にご指導をいただくとともに、深いご理解を賜る機会ができましたこと、本当に有難く心より御礼申し上げます。

また、昨年十月には一県一漁協・経済事業改革JFづくりを目指して大きな山が動き出しました。考えてみれば、「浜談義で組合の枠を超えて、協力や協同の話題が沸騰し



たことがあったでしょうか」、「六十会員が同じ議題で議論をし、これほど心を同じくした事があったでしょうか」、「九つの系統団体が、その垣根を越えて兵庫漁業の将来について、これほど真剣に語り合ったことがあったでしょうか」、「県知事をはじめ、行政の方々の真剣なまなざしに触れたことがあったでしょうか」

我々は今、順風満帆の日まで、生みの苦しみを乗り越え爽やかな新しい風を起こすために、止めてはならない動きであります。今、「同じ屋根の下」「同じ釜のメシ」を合言葉に、漁師が安心して沖にいけるよう兵庫の水産が安定した基盤構築を目指して歩み始めました。そのようなか、本日は三団体合同総会に井戸県知事をはじめ県・系統団体の皆さん方にもご臨席賜りましたことに深い感謝を申し上げますとともに、六十会員のご出席をいただき、この総会を開会できることを何よりも力強く思っております。感謝の気持ちとともに、皆様方の栄を祈念申し上げます。」と挨拶されました。

◆ 事業概要

経済情勢は本格的な景気回復サイクルに入り、デフレからの脱却に向けて着実に前進を始めましたが、水産業界においては、魚価の長期低迷・燃油価格の高騰等依然として厳しい状況が続いています。

本県の漁業環境においても、最盛期を迎える十二月に寒波が襲来し、長期間に亘り低水温と時化がつづいたこと、また、昨年来の燃油高騰により漁船漁業、のり養殖業は厳しい経営環境となりました。

今年度の当会事業を振り返ると、のり海藻事業では一月から三月にかけて色落ちが広範囲におよび大凶作となり、過去最低ののり共取取扱高となりました。

石油事業では度重なる値上げにより、仕入方法の見直し、配達の効率化、コスト削減等について努力を重ねましたが、会員の皆さんに幾度も値上げ負担をしていただくこととなりました。

また、流通加工事業は、会員の負託に応えるため、「浜から消費地までの一貫した取組み」を行うことを基本に直販部門を設置し、消費者ニーズの把握に努めるとともに、安全・安心に配慮した水産物の供給を心がけました。このような厳しい事業運営の中で、平成十七年九月には、JFグループ兵庫全体の健全経営を確保するため、事業、組織等の見直しを行い、効率的、効果的な業務運営が可能となる体制の構築を目指して、JFグループ兵庫組織強化構想(経済事業改革JF)が策定され、この構想実現にむけて、JFと県域団体のオール水産による推進を図るため経済事業改革JF設立推進委員会を開催する運びとなりました。

◆ 事業計画

平成十八年度の事業計画は「心豊かな暮らしと活力ある漁村社会の創造」をテーマに三つの基本方針を定め、本会の事業方針を以下の基本的な課題解決と位置づけ、その達成に向けて各事業活動を実施します。

◆ 基本方針

- ① 漁村を担う人づくりをすすめます。
- ② 活力ある組織づくりに努めます。
- ③ 青く豊かな海づくりを推進します。

◆ 事業運営方針

- ① JFグループ組織強化構想に基づいた事業改革(案)の策定を行います。
- ② 水産資源を豊かに育む海づくりを目指して運動を展開します。
- ③ 漁家経営の健全化のため、燃油高騰対策並びに漁価向上対策に取り組めます。
- ④ のり養殖業、石油情勢等の厳しい経営環境を踏まえ、安定した収益構造の確立を目指すとともに効率的な事業推進に努め、事業管理費の削減を図ります。

通常総会開催

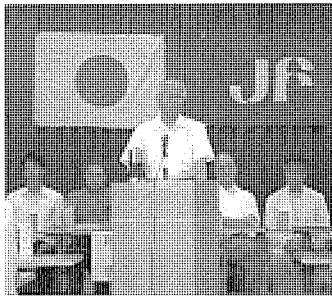
JF兵庫信漁連

吉野信漁連会長は通常総会の開催にあたり、平素は信漁連に対しまして、会員の皆様方に非常に大変に御愛顧いただきお礼申し上げます。また県及び農林中央金庫におかれましては、日頃より信漁連に対しご尽力いただきましてありがとうございます。

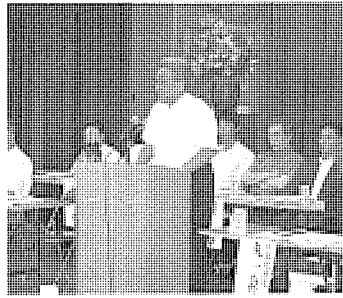
平成17年度につきましては、ペイオフの全面解禁、金融緩和の解除等、金融情勢は非常に大きく動きまじつた。私も信漁連では「二県一信用事業責任体制」の構築という大きな課題があったわけですが、これも皆様のおかげをもちまして、去年の12月、最後の2組合の統合が完了致しまして、足並みをそろえてやっていくことができました。そして私も漁業金融が非常に厳しい状況の中で何とか経営を維持できたという事は、会員の皆様方のご理解とご協力のおかげと感謝をし、その点についても後ほど事業報告させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。

18年度でございますが、漁業の水揚状況あるいは漁業金融も非常に厳しい状況が続くと予想されますが、JFグループが取り組んでいる「二県一JF」組織強化構想と連動した「浜」の金融機能の確立、そして新たな事業展開として「あんしん体制」の構築が課題であります。

今後の事業運営にあたっては長期的な経営計画・事業計画を持ちながら厳しい金融環境・社会情勢に対応しうる体制をつくり、漁業経営にとって系統金融が果たす役割が重要であること



会長就任のご挨拶をされる秋武新会長



吉野会長の挨拶

を再認識し、漁業者等利用者の皆様にとって安心・安全な金融機関でなければなりません。信漁連はひとつになったわけですが、今後も皆様に信頼される信用事業の運営を行っていく使命がございますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。と挨拶されました。

◆事業概要

平成十七年度を顧みますと、経済は内需指導、家計部門へと景気回復が広がりを見せ、日本経済も回復過程に入ったようであり、金融政策面においては日本銀行が量的緩和政策を5年ぶりに解除、15年余り続いた緩和と一辺倒の政策からの転換となりましたが、平成17年4月に全面解禁を迎えたペイオフは、大きな混乱にはなりません。

系統信用事業におきましては、二県一信用事業体制の構築を進め、更なる経営資源の効率的活用とリスク耐性を高める必要から、従来の体制にとらわれない広域信漁連を加えた「信用事業安定運営責任体制(あんしん体制)」を整理し、JFマリンバンクの事業運営強化・高度化を図ることになりました。

さらに「全国漁協代表者集会」において「JFグループの事業・組織・経営改革に向けた新運動方針」を決議し「合併の完遂による組合員・地域に貢献できる自立漁協の構築」「事業改革の実践によるJF事業利益V字回復の実現」を目指し、事業・組織・経営改革を断行していくことになりました。

兵庫県下ではチリメン漁、イカナゴ漁ともに被害がおよび、前年を下回る実績となりました。

系統事業につきましては、12月にJF坊勢、福良の信用事業譲受により、平成9年オープンより9年の歳月をかけ取り組んできた二県一信用事業統合体が完成し、基本方針に基づく二県一信用事業責任体制の構築が完了しました。

経営収支につきましても、前年度を下回るもののほぼ当初計画通りの剰余金を計上し、引き続き出資配当財源を確保できました。

厳しい環境下、本会業務に賜りました会員各位のご理解あるご協力と併せて、ご支援いただきまして感謝する次第であります。

◆事業計画

平成十八年度は、二県一信用事業責任体制をベースにJFマリンバンク基本方針を遵守し、「あんしん体制」の確立を目指します。事業面においては、生活設計を含めた漁業経営にとって系統金融が果たす役割を認識し、平成十五年度に策定した経営改善計画を発展させた向こう3年間の中期経営計画を策定し、自己資本の充実とJFマリンバンク基本方針に基づく業務運営体制の抜本的な見直しを柱とした取り組みを開始します。

①組織・体制の再構築

○安心・安全のJFマリンバンクの構築。漁業者等利用者の方に、より安心してご利用いただけるような組織作り

○意思・管理体制のもとで営業活動ができるよう、漁協の経営状態、ニーズを把握した店舗構成の再編

②系統金融力の強化

○漁業者、系統諸団体等の役員共に系統金融の必要性・重要性を図り、系統利用率の向上推進

○漁業者の生活に応じた相談・指導機能が発揮できるような体制の確立

○女性部・年金受給者は系統金融の応援団と位置付け、連携を図る

○女性部を対象とした生活設計相談会(仮名色)の実施

○モデル地区を限定し「JF年金友の会」の実施

③経営の健全性維持と質の向上

○財務健全性の確保、リスク管理システムの構築

○コンプライアンス(法令等遵守)体制の強化を図り、適切な人事ローテーション、研修の実施、個人情報保護意識の徹底

○不祥事の未然防止、リスク管理の強化に取り組み、信頼性の確保に努めます。

JFぎよさい兵庫

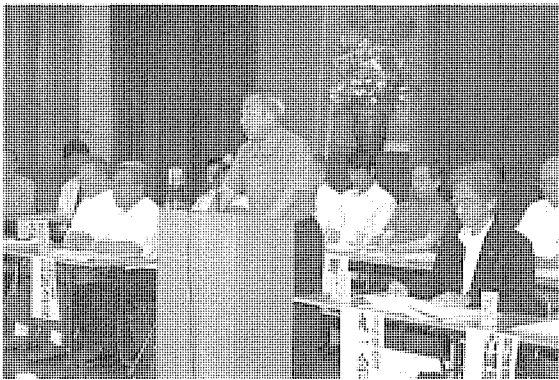
通常総会開催

通常総会の開会にあたり、吉岡組合長は「平成十七年度の事業状況は、厳しい漁業環境の中での加入推進となりましたが、制度の趣旨についてのご理解をいただき、ノリ特定養殖では新規二漁協の加入が実現いたしました。その結果、漁業共済事業と地域共済事業を合わせると、二百四億四千万円の加入となり、昨年度に引き続き二百億円を超える加入実績となりました。この実績は、全国第四位という誇れる結果であり、今後とも、高水準の加入実績を目指して参りたい所存でございます。

一方支払い関係では、内海地区のノリ養殖業で三億円、但馬地区の底曳網漁業で四千八百万円、また、内海・但馬地区の小型漁船漁業で八千五百万円など、地域共済をあわせて合計で六億八百万円の支払となり、依然として厳しい漁業環境の中、こくわずかではございますが、漁業経営安定に貢献できたものと確信いたしております。

本年度におきましても、イカナゴの漁獲不振や、また、十七年度ノリ漁期におけるノリの色落ち被害の発生により、ノリ特定養殖で七億円を超える支払が見込まれるなど、漁業経営を圧迫する事象が続発している状況でございます。

しかしながら、まだ加入いただいていない組合



もあるわけですが、今後も魚価の低迷や燃油高騰が継続的に見込まれる中、ぎよさいは漁業経営に役立つものであるとの考え方に切り替えていただき、総加入にご協力いただきたい。そして、これを系統団体全体の問題として取り扱っていただき、深いご理解・ご協力を賜りたいと存じます。

不測の事態にあつても、漁業経営の支えとなるべく、今後とも努力して参りたいと存じておりますので、どうかよろしくお願いいたします。」と挨拶しました。

◆事業概要

平成十七年度は、平成十四年度から取り組んできた「新ぎよさい総加入運動21」全国運動の最終年度として、守るぞ経営「ぎよさい」新時代をスローガンに、漁業者一人ひとりにぎよさいの役割等についての理解を深めてもらい、より一層の制度の定着と高度利用を図るべく、漁業共済事業で二百一億九千万円、地域共済事業で四億四千万円の加入目標を設定し、継続契約の確保はもとより、新規加入の拡大と契約割合の引き上げによる補償力の向上を目指して、制度の普及拡大に取り組みました。

しかしながら、魚価の低迷や資源の減少等の厳しい漁業環境の中での推進活動になり、漁業共済事業においては加入計画を下回る百九十九億五千万円の加入実績となり、継続契約における漁獲不振に伴う補償水準の低下等のため、前年度実績に対し二億四千四百万円下回る98.8パーセントの率となりました。また、地域共済においては、加入計画を五千七百万円上回る四億九千八百万円の実績となり、前年度を五千七百万円上回る120.9パーセントの伸長率となりました。これは、新規契約者の増加があったことによるものです。

一方、支払実績では、漁業共済事業においては、前年度より三億七千万円減少しましたが、厳しい漁業環境

を反映して五億九千七百万円と高水準の支払実績となりました。また、地域共済事業で、漁船の火災等による支払で千二百万円の実績となりました。両事業を合わせた総支払額は六億八百万円となりました。

以上の結果、本年度の事業部門の収支は八百九十九万円の赤字、管理部門では千四百六十八万円の黒字となり、総合収支で五百六十九万円の剰余となりました。

◆事業計画

今年度から新たに3カ年の新普及推進運動「浜を守るーぎよさい総加入運動」を全国展開することとなりました。近年は、ぎよさいが自然災害対策ばかりか経営安定対策の重要な柱であることの認識が、漁業者をはじめ漁協系統、行政にも従来にも増して浸透してきたところであり、今年度から実施の国庫の上乗せ助成である漁業共済基盤強化事業も活用し、より一層の制度の定着と高度利用をはかるべく最大限の努力を傾注します。

本年度の加入目標共済金額を、漁業共済事業二百億七千万円、地域共済事業四億九千万円と設定します。

◆主な施策

- ①「浜を守るーぎよさい総加入運動」初年度の取り組み
- ②中央・地方一体的推進活動の展開
- ③系統各団体・行政との連携
- ④広報活動の活発な展開
- ⑤漁業共済掛金助成等事業の活用
- ⑥研修活動の充実強化と組織の活性化
- ⑦事務処理体制の効率化等
- ⑧漁業実態に即した事業運営の実施
- ⑨漁業共済団体の組織再編
- ⑩制度の充実等の取り組み

兵庫県内海漁船保険組合が漁協担当職員を対象に ディーゼルエンジンの技術研修会を開催

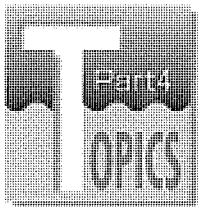
ディーゼルエンジンは1892年ドイツの技術者、ルドルフ・ディーゼルによって発明された内燃機関であり、現在も漁船の動力源として幅広く活用されている。漁業者の日常の管理不良等に起因しての焼付事故も数多く発生していることから、担当職員の立場から船用エンジンの基礎知識を習得し、保険取扱いに役立てることを目的とした技術研修会を、平成18年5月30日(火)～6月1日(木) 滋賀県長浜市のヤンマー株式会社滋賀研修所で実施いたしました。

研修には管内14漁協より15名の職員が参加し、小型船用ディーゼルエンジンの基礎講義を受講後、4グループに分かれて内海の本釣り、刺網漁船などに搭載されている4CH型エンジンの分解組立作業を行った。

ほとんどの職員が工具を持つのは初めてで、最初は恐る恐るボルト・ナットなどを回していましたが、後半になると大分慣れてきて自信を持って各部品を取付けしました。第2日目の夕方には4グループともエンジンの組立が完了し、少々のトラブルはありましたが4台とも無事試運転を行うことが出来ました。

今回の技術研修は漁船保険組合としても初めての試みであり、参加した職員の口からは「もっと早く実施してほしい」「もっと細かい所まで分解してみたかった」「エンジンだけでなく船体や設備機器類の研修もしてほしい」など意欲的な意見も数多く上がりましたので、今後も是非企画検討していきたいと考えています。

最後になりますが、参加いただいた職員の皆様方、大変お疲れ様でした。



淡路地区漁協女性部連合会 50周年式典開催

去る5月27日(土) 洲本市立文化体育館において、「淡路地区漁協女性部連合会 平成18年度通常総会 第50回記念大会」が開催されました。当日は淡路島内の女性部員が各地より参集し、来賓の方々を合わせて約400名参加のもと、盛大に執り行われました。

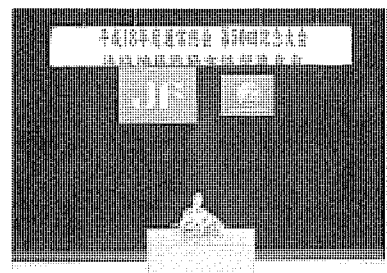
今大会は、平成18年度通常総会と記念大会の二部構成で行われ、まず開会にあたり、森武美会長の挨拶のあと、来賓の県議会議員矢尾田先生、塩飽淡路県民局地域振興部長、丸一県漁連会長、前田淡路水交会長から祝辞が述べられました。

第一部の通常総会については、議事は滞りなく進行し、全議案は原案どおり可決承認されました。

第二部の記念大会は「あわじ女性連50年のあゆみ」でスタートしました。前方の大型スクリーンに音楽に乗せて映し出される昔の浜の風景や、女性連の活動の写真を見た女性部の皆さんは、仲間たちと昔を振り返り、思い出話に花を咲かせていました。

続いて、記念講演として、西川ヘレンさんにお越しいただきご講演いただきました。多重介護についての体験談、家族の愛についてユーモアたっぷりにお話しいただき、会場は大いに盛り上がり、終演後は拍手の渦で会場が揺れました。

淡路地区漁協女性部連合会がこの50年の間、様々な活動に取り組んで来ることができたのも、ひとえに夫の理解と協力、親組合をはじめ系統、行政、関係各位のご支援とご指導あつてのことと改めて感謝の気持ちを強く胸に感じ、今後も明るく豊かな漁村づくりを合言葉に手を携え頑張っていきたいと思っております。



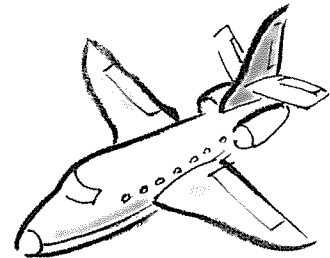
西川ヘレンさんによる記念講演

中核的漁業者視察報告

その1

育波浦漁業協同組合の片山守さんは(財)兵庫県水産振興基金の中核的漁業者海外調査助成事業でニュージーランドの漁業を視察されました。ご本人からそのレポートを頂きましたので掲載いたします。

我々が住む、北半球の反対側にあるニュージーランド。人口約400万人で管理型漁業の先進国でもあり、安定した漁獲量、価格を誇り、流通面、販売形態、また、オークション(セリ)等でも近代的な設備をいち早く導入しているという事が分かり、この度、視察に行かせていただくことになりました。



■ クライストチャーチ

1月9日から1月10日

平成18年1月8日午後5時15分、関西空港を離陸し一路南半球へ。1月9日午前9時に目的地ニュージーランドのクライストチャーチに着陸しました。約11時間のフライトでした。海外への一人旅はもちろん初めてで、夜便でしたが、やはり期待と不安であり眠れず若干疲れの残る空の旅でした。

ニュージーランドの季節は夏ですが、日本の初夏のような心地よい気候で、長旅の疲れも癒してくれました。

クライストチャーチでは主にフィッシュマーケットでの流通、価格、販売方法等の調査をしました。

まず、目に付くのが「フィッシュ&チップス」という店です。日本のファーストフード感覚の店で、店名のとおり、魚とポテトのフライを販売している店ですが、その他、鮮魚も販売しています。好みの魚とポテトを油で揚げたものを一緒に食べる方法は、地元の人にとっては最もポピュラーな食べ方です。1カップ、1\$60程で、これは主にサメの肉を使ったものが多いそうです。次いで、タラを使った約3\$のものが人気があります。その他、様々な種類の魚が販売されていました。このフィッシュ&チップスを町のカフェで食べると10\$くらいに価格は上がるそうです。



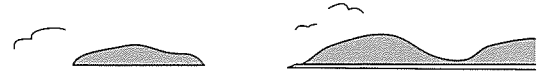
「安く簡単に魚を食べる」という市民の欲求から発生した食文化の1つだと感じました。私たちもこれからは魚を単体の販売ではなく、例えば、魚を加工し何かを併せて販売すれば、低価格の魚がある程度の値段で、広く一般の人々に供給できるのではないかと思います。そうすれば需要も伸びる可能性もあります。

この他、町中には、スーパーマーケットもかなりあり、店内を覗いてみると焼き鳥のように魚を小さくカットし、串に刺したものをパック詰めしている物や、魚とサラダを一緒にしたものや、ピザと魚をパッケージングして、手軽にレンジで温めると食べられるものが目に付きました。

魚は焼いて食べることが一般的な国なので、鮮魚或いは火を通す直前まで加工したもの等が多く陳列されていました。

次号、オークランド編に続く!

海づくり協会だより

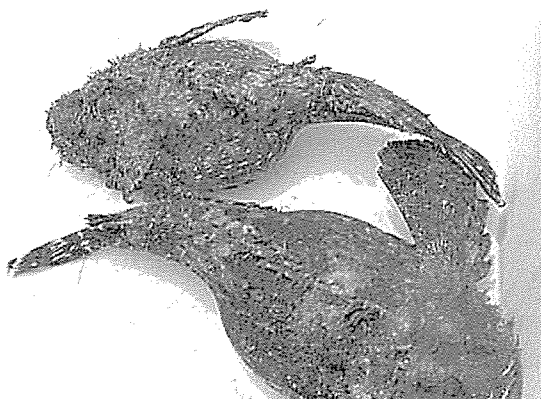


メスオコゼに想うこと・・・

私が栽培漁業センターでオニオコゼと付き合い始めたのは今から12年前、平成6年のことです。早いもので、今ちょうど行っている稚魚づくりは13シーズン目にもなります。今回は、どうにもうまく付き合いきれていないメスオコゼに対する私の想いというか不満を綴りたいと思います。

これまでオニオコゼの稚魚づくりをするうえで、最大の難関となつて私の前に立ちはだかつてきたのは、ちゃんと卵が取れないって事でした。卵を取るメスオコゼは、稚魚を自然の海に放しても遺伝的に問題とならないように、天然魚を使うことにしています。毎年産卵前の5月になると地元明石浦漁協さんに無理をお願いして、大きなメスオコゼを揃えてもらっています。新しいメスオコゼを迎えるにあたり私がすることは、施設の中に逆ハーレムを作っておくことです。一番いい水槽を用意するのはもちろん、年中飼ひ慣らしてあるオスオコゼもたくさん入れておきます。さしずめ私はオコゼカップリングパーティーの主催者ってところでしょうか。

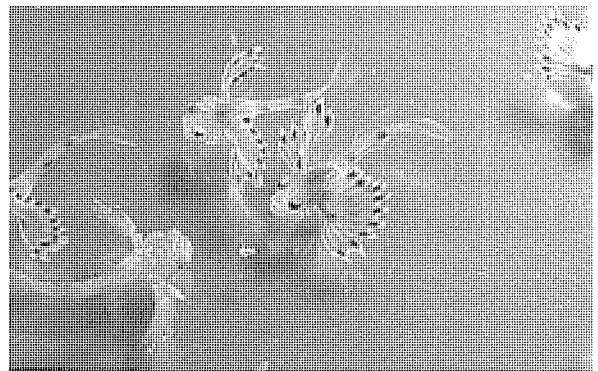
オニオコゼの産卵は日没前後に行われます。この時間帯に水槽を観察していると、卵を産みそうなメスオコゼに数匹のオスオコゼがまとわりつき、産卵を促す様子が見られます。産卵前のメスオコゼは、違う魚と見間違ふほどお腹がパンパンになっています。この時、メスオコゼのお腹の中には数十万の卵が入っていますので、10数匹もメスオコゼがいれば、10万匹の稚魚づくりに使う卵は簡単に確保できることになるはずですが。しかし何が気に入らないのか、いつまで経っても卵を産まないメスオコゼが後を絶たないので。産まなかった卵はやがて時期を逸し、残骸としてお腹の



卵でお腹がパンパンになったメスオコゼ。ちゃんと産んでくれよ～

中に残ってしまいます。卵の残骸が残ったままのメスオコゼは死んだりすることはないのですが、翌シーズンはそれが邪魔をして産卵しないってことになってしまうようです。ほんと、もしもメスオコゼと話す機会があれば、何が気に入らないのか聞いてみたいものです。

対してオスオコゼについてはいつも同情的な感情を抱いています。オスがメスを独り占めしたいという願望は人間と同じのようで、メスの傍らでオス同士が小競り合いしているって状況は産卵が行われている期間中続きます。見てるとほんとに滑稽で、小競り合いに夢中になってる間に、目当てのメスオコゼが他のオスオコゼと産卵をしちゃってって場面も見たことがあります。ただ、オスオコゼの質がメスオコゼの産卵に与える影響が大きいとするならば、私も心を鬼にして、飼っているオスオコゼを鍛え上げる必要があるのかもしれませんが。って、こちらの方がメスオコゼの管理より難しそうですね。



オニオコゼの赤ちゃん(全長1センチ)

このように憎たらしい面が多い親と違い、赤ちゃんの時のオニオコゼは、か弱く、ほんとに愛らしいのです。親譲りの大きな胸鰭をヒラヒラさせながら泳ぐ様はまるで蝶々のようで、その1匹1匹にがんばって大きくなればよって励ましてあげたい気持ちかわいてきます。今回お話ししたこと以外、稚魚づくりについても生き残る割合が低いだの、大きくなるのが遅いだのといった技術的な課題は未だ多く残されています。私自身これからもそれらをひとつずつ克服しながら、自然の中で充分に生き残れるような稚魚づくりの方法を見つけていきたいと考えています。

(財)ひょうご豊かな海づくり協会 楽 敦司

JA兵庫西が第3の新しい広場をオープン! 地産地消、地域営農振興への掛け橋に

4月29日、赤穂郡上郡町にJA兵庫西が手がける大型ファーマーズマーケット、「旬彩蔵上郡」がオープンした。

開店前のセレモニーでは地元有志による円心太鼓演奏が披露され、松岡喜一副組合長の挨拶に続き、関係者によりテープカットが行われた。開店と同時に地元産の朝採り新鮮野菜を買い求める大勢の人々が来店。もちつき大会、農機・自動車の展示会なども同時に開催され、1,000人以上の来場者でにぎわった。

この「旬彩蔵上郡」は、消費者に「食する喜び」、生産者に「つくる喜び」の提供を基本としたJA兵庫西の新食農事業の一環で、宍粟市山崎町、神崎郡福崎町に続き3店舗目。さらなる食の安全・安心が求められるなか、消費者と生産者の顔が見える地産地消、および地域営農振興への取り組みとしてJA兵庫西の中でも元気な事業の一つとなっている。また、旬彩蔵上郡では今後、農産物直売事業にとどまらず加工施設・農業資材供給施設の建設など、西播磨地域の農業振興拠点整備を視野に入れた事業展開をめざしている。



朝採り新鮮野菜がズラリ。
開店と同時に多くの来店客で賑わう「旬彩蔵上郡」

第56回 通常総会を開催

6月20日(火) 兵庫県民会館において兵庫県生協連第56回通常総会を開催し、代議員数39名中名、38名が出席(実出席名29名、書面議決8名、委任1名)しました。

はじめに、浅田会長理事が挨拶。続いて、来賓を代表して兵庫県県民政策部長・藤原正治様、神戸市市民参画推進局長・桜井誠一様、兵庫県農業協同組合中央会専務理事・三木久和様、日本生協連関西地連事務局長・小嶋幹雄様から、それぞれ大会の盛会と今後の発展を祈念したご祝辞をいただきました。

総会では、姫路医療生協の河本利文代議員の議長で議事が進行され、05年度活動報告、06年度活動計画(案)など7つの議案について審議、会員生協の活動報告では、コープこうべ・柳瀬啓子代議員が、創立から今日まで組合員と一緒にすすめてきた食生活活動と、日本生協連主催の「たべる、たいせつフェスティバル2006」の紹介を、尼崎医療生協・福島哲代議員は、住み良さ日本一の尼崎のまちづくりをめざした特別養護老人ホーム建設、新病院建設、老人保健施設開設の3つの施設拡大運動など、安心と助け合いのまちづくりの取り組みについて、関西学院大学生協・高橋秀行代議員は、リサイクル容器を使った弁当のデポジット(保証金)販売など環境の取り組みについて、姫路市民共済生協・藤田浩子代議員は、姫路市と合併した旧安富町、香寺町、家島町、夢前町における交通共済の新加入促進運動で得た成果報告をおこないました。その後、採決に入り、全議案が満場一致で可決・承認されました。



お知らせ

燃油1リットルあたり1円の助成を決定

(財)兵庫県水産振興基金では「JFグループ兵庫組織改革助成事業」で漁協系統団体の購買事業利用促進を図ることを目的として、各漁業協同組合における兵庫県漁業協同組合連合会の平成17年度の燃油供給実績に応じて、燃油(軽油・A重油)1リットルあたり1円の助成金を利用実績のある漁業協同組合に対し交付することとなり、7月上旬に漁業協同組合に入金しました。

今後とも系統事業の利用促進にご協力下さいますようよろしくお願いいたします。



行事予定

<変更になる場合があります>

JF兵庫漁連		
7月	10日(月)	近畿漁業無線協会総会
	19日(水)	11:00~ 丸一会長黄綬褒章受賞 祝賀会(ポートピアホテル)
	21日(金)	13:00~ のり養殖基本問題検討会 環境部会モデル検討委員会
	27日(木)	13:00~ 理事会(中会議室)
	28日(金)	14:30~ 組合長懇談会 (ホテルニューアワジ)
	29日(土)	11:00~ 豊漁祈願(伊弉諾神宮)
	31日(月) 8月4日(金)	JF全漁連監査
8月	14日(月) 16日(水)	夏期休暇集中取得期間

JFぎよさい兵庫		
7月	20日(木)	13:00~ 組織問題に関する ブロック別協議会 (中会議室)

JF共水連兵庫		
7月	11日(火)	13:30~ 西浦地区推進協総会 (JF育波浦)
	12日(水) 13日(木)	全国共済担当者研修会 (東京ドームホテル)
	13日(木)	15:00~ 南浦地区推進協総会 (JF福良)
	19日(水)	10:00~ 共水連総代会(東京)
	26日(水)	10:00~ 西播地区推進協議会総会 (場所未定)

基金協会		
7月	21日(金)	13:00~ 理事会(中会議室)
	31日(月)	13:30~ 保証審査委員会

内海漁保		
8月	22日(火) 24日(木)	役員・総代研修会・ 海上安全祈願祭

但馬漁保		
7月	11日(火) 12日(水)	山陰・山口地区 漁船保険組合事務連絡協議会 (神戸)
	31日(月) 8月1日(火)	漁船保険事務研修会 (城崎)

漁港協会		
7月	18日(火)	12:00~ 役員会・近畿ブロック会議 (姫路キャッスルホテル)
	19日(水)	9:00~ 近畿ブロック協議会視察 (水産技術センター)

振興基金		
7月	23日(日) 25日(火)	20周年記念事業

兵庫県		
7月	11日(火)	11:00~ 兵庫沿岸漁業 振興協議会総会
	20日(木)	13:00~ 但馬海区漁調委 (但馬漁業センター)
	21日(金)	15:15~16:45 政策提案会 (ひょうご女性交流館)

その他		
7月	26日(水)	11:30~ 但馬地区漁協合併 仮契約調印式 (ファミリーイン今子浦)
	27日(木)	コープマリンスクール (JF神戸市)

編集後記

サッカー日本代表の加地選手が淡路島出身ということで、何となくワールドカップを観ていました。

結構ハマッてしまいました。さすがにプレーは出来ませんが。

観ている時、妹が「お兄ちゃん“かっしゃえび”って何」って聞いてきました。かっしゃえび…? どんなエビや?

しばらく考えてそのエビが載ったカタログを見せてもらいました。

見て爆笑。いけくるまえび(活車エビ)でした。

こんな間違い結構ありますよね。



独自の漁法を守り、 豊かな海の幸を育てる

ウニの 漁場!

No.39

JF 由良町中央



天然の良港に恵まれた淡路島でも屈指の漁業の町、洲本市由良。この由良地区には3つの漁業協同組合があり、それぞれの組合ごとに特徴のある漁業が展開されています。まず、由良漁業協同組合では一本釣り、そして東由良町漁業協同組合では底曳き網漁を中心とした漁業が展開されていることは、既に本紙でご紹介しました。そして、由良3漁協の最後を飾るここ由良町中央漁業協同組合では、兵庫県下でも唯一となる「素もぐり

り漁」を中心に、ノリ養殖、底曳き網、一本釣り、曳き縄などの漁が行なわれています。

素もぐり漁によって獲っているのは、主にアワビ、サザエ、ウニ、ナマコなどで、現在177名いる組合員のうち、この素もぐり漁を専門としている組合員は、約100名にのぼります。由

良町中央の漁場は、きれいな水が湧き出し、海藻類が非常に豊富なことが大きな特徴です。このため、海藻類をエサとするアワビ、サザエ、ウニなどにとって、由良の海は絶好の住みかといわねばなりません。当然、豊富な海藻から十分な栄養を吸収して育つ由良のアワビやウニは、身がぎゅっと詰まり、濃くしっとりとした味わいとなります。その品質の高さは、大阪北新地の高級料亭で食材として多く使われていること、また、昨年・一昨年と大阪の中央市場でNo.1の値をつけたことから明らかです。このように、由良のアワビやウニは、今や最良の食材として認識されつつありますが、その背景には組合員の皆さんの知恵と努力が隠されているようです。由良町中央漁協の若い組合員の皆さんを中心として作られた「由良ウニ加工協業体」は、商品の値段を高く保ち、さらに由良の海産物のブランド化を

< 漁協メモ >

由良町中央漁業協同組合
代表理事組合長 武田 政和
組合設立日：昭和25年8月9日
組合員数：正組合員157名、准組合員20名／計177名
漁獲数量：432トン



図るため、仲買人を通さず、京阪神の市場に直接商品を出荷する取り組みを続けてきました。協業体メンバーによって、通常使われる添加物を一切使用せず箱詰めされた「あわじ由良ウニ」は、その確かな品質が評判となり、着実にブランド力を高めつつあります。実際に漁に出ている組合員だからこそ分かる「由良ウニの価値」。その価値を人任せにせず、自分たちで伝えようとする組合員の皆さんの熱い気持ちが、結果につながったと言えるのではないのでしょうか。

さて、素もぐり漁はシーズンに関係なく、1年を通して行われる漁です。このため、獲り過ぎによる海の資源の減少を防ぐことが重要な課題となってきます。実際、徐々に資源が減っていることに加えて、商品単価が下がっていること、そして漁の休日が増えたことなどが重なり、組合の水揚げ高は右肩下がり傾向にあります。そこで、由良町中央漁業協同組合で長年にわたって行なわれているのが中間育成です。中間育成に取り組み始めたのはもう30年以上も前のこと。小さな建物を使い、小規模な育成からのスタートでしたが、8年前には組合事務所の向かいに専用の育成場が完成し、現在はこの施設で中間育成を行っています。約1年をかけて種苗から育てられた稚貝は、アワビ約5万個、ウニ約6万個が放流され、由良の海の貴重な資源となります。ただ、一人前の大きさになるまでに、ウニは約3年、アワビに



中間育成場

なると約6年間という大変長い年月が必要です。このため、放流の成果が翌年すぐに表れるというわけではありませんが、だからこそ、長い年月をかけ、じっくりと取り組む姿勢が大切になってくるのです。

7月に入るといよいよ超高級食材である赤ウニの季節。わが兵庫県が誇る甘みが強く、濃厚な味の「由良産の赤ウニ」をこの機会にじっくり味わってみられてはいかがでしょうか。



招 TAKUSUI
7 July

JF 発行人 兵庫県漁業協同組合連合会 発行所 兵庫県漁業協同組合連合会
(財)兵庫県水産振興基金
〒652-0844 神戸市兵庫区中之島2-2-1 TEL 078-652-3444 FAX 078-671-6685

URL <http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/>